

九大広報

Kyushu University Campus Magazine

vol. 56
2008.3



インタビュー・シリーズ九大人

高樹 のぶ子 アジア総合政策センター
特任教授・作家
廣畑 富雄 九州大学名誉教授



特集	歓迎 ニ〇〇八年度新入生 歓迎メッセージ 梶山総長から 学部長から 先輩たちから 新入生へ「留学・サークル案内」	11 9 3 2
インタビュー・シリーズ九大人	アジア総合政策センター特任教授・作家 高樹 のぶ子 九州大学名誉教授 廣畑 富雄	13 19

シリーズ研究・ふろんとランナー	脳の構成単位である 神経細胞突起形成の メカニズムに新知見 生体防御医学研究所 准教授 白根 道子	23
ニュース	□ UCL AでグローバルCOE シンポジウムを開催 □ 新海教授も最終講義 □ 泉大臣が講演 □ QBS ニュース □ ようこそ九大へ □ 同窓会の話題	27 29 30 30 31
海外オフィスだより	□ ロンドンオフィス	32

告知版	□ 平成二十年度前期外国語講座案内 □ 平成二十年度開学記念行事 新聞で報道された九州大学 □ 平成十九年十二月 平成二十年一月 九大生が案内する世界のキャンパス □ マンチェスター大学（イギリス） こんな本出しました □ 九州大学「知の新世紀を拓く」 編集後記	33 34 35 37 38 38 38
-----	--	--

九大

Kyushu University Campus Magazine

広報

vol. 56

2008.3

編集発行 九州大学広報専門委員会

事務 九州大学総務部広報室

住所 〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1

電話 092-642-2106

FAX 092-642-2113

E-mail koho@jimu.kyushu-u.ac.jp

URL http://www.kyushu-u.ac.jp

印刷 アイメディア株式会社

□お読みになつてのご感想やご意見をお待ちしています。

□投稿をお受けします。文字数は、300字未満。手書きのものも受け付けますが、できればテキストファイルのフロッピーディスク又はEメールでお送りください。可能な限り掲載しますが、本誌の目的や性格に照らして不適当と思われる原稿は掲載しません。

■九州大学関係者が本誌記事を転載する場合は、「九大広報第〇号から」と明記してください。学外の方は、事前に事務までご連絡願います。

■「九大広報」は九州大学ホームページでもお読みいただくことができます。

■次号は、2008年5月発行予定です。



二〇〇八年度

新入生

歓迎

総長からの新入生歓迎メッセージ

九州大学総長 梶山 千里

長い間の努力を实らせて九州大学の一員となった皆さんを、心から歓迎します。また、新九大人たちをその周辺で物心両面から支えて来られた多くの皆様へ、心からお祝いを申し上げます。

まず、新入生の皆さんに、学生である前に一人前の社会人であれと申し上げます。社会の規範を尊ぶ意識を持ち、自らを尊ぶと同時に他者を尊ぶことを忘れない、一人の人間であることを求めます。

皆さんは、何をしようと思つて九州大学に入学して来ましたか。常日頃、私は学生諸君にはまず「勉強しなさい」と申し上げています。皆さんは、勉強するために九州大学へ入学したのです。

しかし、勉強は講義で習うことだけが対象となるものではありません。サークル活動や研究室で、皆さんは人と人との付き合いを学ぶでしょう。九州大学には約一、三〇〇人の留学生も学んでおり、ともに学びともに生活する機会も多く設けられています。彼等と接する中で、皆さんは日本の文化や歴史をもっと勉強しておく必要を痛感するでしょう。

大学の内外で、専門に偏ることなく、積極的に幅広く学んでください。素養の広がり、皆さんをより高い頂に導いてくれるでしょう。皆さんが、幅広い教養と確かな専門性を身に付け、国際的にも活躍できる本物の社会人となって、四年後巣立っていくことを切望しています。

(かじやま ちさと)

文学部長

稲田 俊明

いなだ としあき

専門分野：理論言語学

新たな第一歩を

新たな第一歩を踏み出す諸君に、人文学の叡智に触れることにより、通説を打破して新しい知の創造を目指し、日々成長してほしいと思います。

文学部の学問である人文学は、新奇で断片的な知識（トリビア）や技術を追い求めるのではなく、個々の事象を研究の対象としながらも、その背後に隠れた法則や普遍性の探求を目指します。人文学を学び、人間の過去・現在・未来を深く省察すること、自分の将来像を見直す転機やこれからの飛躍のチャンスを手繰ってください。

人間を探究する人文学にも技術や方法があり、また、闇雲に答えを探しても求める答えは得られず、

解決の道を照らす明かりが必要です。暗い夜道で大事な物を落とし、街灯の下だけを懸命に探している人に、「街灯の下をあなたが探すのはそこだけが見えるからだ。探し物がそこにある保証はない。明かりを増やして別のところを探そうがよい。」と言った学者がいます。豊かな知の探求の技法を伝授するのを楽しみに諸君を待っています。

* 稲田俊明文学部長の任期は三月三十一日で満了となり、四月一日に柴田篤（しばた あつし）人文科学研究教授が文学部長に就任。



二〇〇八年度

新入生

歓迎

学部長からのメッセージ

教育学部長

野島一彦

のじま かずひこ

専門分野：臨床心理学

オンリーワンを目指して



教育学部へのご入学おめでとうございます。近年、いろいろな意味で競争が激化し、ランク付が行われ、格差が生じています。そのような状況ではナンバーワンを目指されます。

しかし教育の目的は、ナンバーワンを目指して人を育てるのではなく、オンリーワンを目指して育てるのであり、その結果としてその人がナンバーワンになることもあります。

皆さんがオンリーワンを目指すには、それぞれに与えられている個性を磨くことが大事です。た

だ、自分の個性を見出し、伸ばしていくことは簡単なことではありません。一方では、自分の内なる「心の羅針盤」をしっかりと見つめ、従うことが必要です。他方では、自分を取り巻く環境から多様な刺激を豊かに受けることが必要です。皆さん一人一人が、オンリーワンを目指していかれるようお願いとともに、教育学部としてもそのように育てていきたいと思っています。

法学部長

直江眞一

なおえ しんいち

専門分野：西洋法制史

法を学ぶとは？

「法を学ぼうとする者は、最初に法（Jus）という語が何に由来しているかを知らなければならぬ。それは正義（justitia）から来ている。法とは善と衡平の術である。私たちは正義を育み、善と衡平を知っていることを自らの職分としている。衡平と不正を区別し、適法と不法を見分けることによって。罰への恐怖によるだけでなく恩恵という励みによってもまた善がもたらされることを望み、見せかけではない真の知を追求することによって」……これは古代ローマの有名な法学

者ウルピアヌスが述べた言葉です。今から一八〇〇年程前に言われたことですが、今日でもそのまま通用するのではないのでしょうか。法を学ぶということは条文を暗記することではありません。また、法とは決して小手先の技術ではありません。法学部に入った皆さんには、ぜひ「正義」「善」「衡平」が何であるかを学び、自分で考えて欲しいと思います。



経済学部長

川波 洋一

かわなみ よういち

専門分野：金融論



波乱の時代への挑戦

長い間の努力が実を結び、九州大学合格の栄冠を勝ち取られた皆さん、おめでとうございます。皆さんを九州大学にお迎えできることを大変うれしく思います。

経済学という学問が体系づけられたのはそれほど古いことではなく、ようやく十八世紀になってからのことでした。アダム・スミスの『国富論』（一七七六年）がその代表と言ってよいでしょう。しかし、人間の経済活動は人類の歴史とともに古いものです。特に近年において、人間を取り巻く経済環境は日々変化しており、とりわけ経済現象のダイナミックな変化には目を見張るものがあり

ます。温暖化をはじめとする地球環境問題の噴出、中国やインドの急速な経済成長と世界経済の構造変化、サブプライム問題に現れる国際的な金融危機等々、世界を揺るがす大きな変化が次々に起こってきています。複雑化し、多様化し、そして波乱の度合いをますます強めています。現代はまさに経済の時代です。こうした現代に生起する問題は、まだ満足すべき理解や解決策が見出されていないものばかりです。皆さんのように意欲と若さと情熱を持った若者とともに、これらの問題の解決策を一緒に考えていきたいものです。

理学部長

宮原 三郎

みやはら さぶろう

専門分野：大気力学

大学で学ぶこととは

理学部への入学おめでとうございます。理学部では、自然の理を解明する学問を通じて人類が培ってきた自然観や英知を学び、社会の発展、地球環境の維持・改善に役立つ人材の育成を目指す教育が行われています。理学は、物事をその根源から問う学問です。物事の表面的な理解に止まることは許されません。新入生の皆さんが、大学での勉学がこれまで経験してきた勉学とは大いに異なることをいち早く悟り、各々の専攻分野において明確な目的意識を持って、勉学に励まれることを

期待しています。また、大学が専攻分野での学問を深める場であることと並んで、幅広い人間形成の場となることを期待しています。大学では多くの人々との巡り合いが可能です。良き朋・師と巡り合い、更には広範な人々および精神との巡り合いを可能とする書を通じて、これを達成されることを期待しています。

理学部での学生生活が皆さんの未来を拓く有意義なものとなることを願ってやみません。



歯学部長

赤峰昭文

あかみね あきふみ

専門分野：歯科保存学

新入生の皆さんご入学おめでとうございます。難関の歯学部への入学を果たし、皆さんの心の中は様々な希望が膨らんでいることと思います。心よりお慶び申し上げます。若くそして優秀な皆さんの頭脳は、これから大学で学ぶ沢山の知識をまるでスポンジが水を吸い込むように吸収していくことと思います。皆さんの潜在能力は本当に羨ましい限りです。しかし、大学での勉強はただ知識や技術を蓄積することに終始しては意味をなしません。そこがこれまでの受験勉強と根本的に異なるところであり、その切り替えが旨くできるかどうか、これからの皆さんの将来に大きく影

想像力の創成を期待して

響します。現代の科学技術の進歩はめまぐるしく、数年もすればそれまでの科学知識は時代遅れになってしまいます。医療系の知識や技術もその例外ではありません。絶えずアンテナを張り巡らして、新しい情報を取り込み、その情報を消化・吸収して自分のものとして整理し、そこから得られた知識や技を外部に出力できる能動的な能力を養うことがこれからの皆さんの新しい目標であることを自覚してください。六年後に立派な歯科医師に成長した皆さんの姿を思い浮かべながら、私からのお祝いならびに歓迎の辞といたします。



医学部長

高柳涼一

たかなぎ りょういち

専門分野：内分泌代謝・糖尿病学



楽しいキャンパスライフと共に真に身に付く勉学を

新入生の皆さんご入学おめでとうございます。皆さんはこれからの大学でのキャンパスライフに心躍らせていることと思います。九州大学医学部は医学科、保健学科、生命科学科の三学科を擁しています。その三学科は、「生命の基本原理の探求から、様々の疾病の原因究明とその検査法、診断法、治療法、看護法の開発までを手がける研究組織」の基にあり、基本的知識のみならず、最先端の医療を踏まえて、皆さんを教育します。国際交流の機会もあります。今からの四年間あるいは六年間は長いようですが、瞬く間に過ぎ去ります。しかも、二度と経験しない人

生の Golden Time です。多くの人々、友人、師、との巡り会いの機会もあると思います。医系キャンパスの中の面白そうな研究室も訪ねてみてください。是非、視野を広く持つて、有意義な大学生活を送っていただきたいと思います。医学部での勉強はこれまでの高校までのものとは大きく異なります。実際に生命科学・医学・医療・保健学を实践するための勉強です。この Golden Time を使って時間をかけて自分のものにして欲しいと思います。よく遊び、よく学んで有意義な医学部生活を送ってください。

工学部長

末岡 淳男

すえおか あつお

専門分野：機械力学

工学部への入学、おめでとう。工学部では建築学科を除いたすべての学科・コースが新しい伊都キャンパスに教育研究活動の場を移しました。このすばらしいキャンパスで世界に誇れる高いレベルの教育を提供しますので、しっかり学んで世界のために役立ててください。

工学は、社会や自然への影響を常に考慮しつつ、制約された条件下でもの作りを具現化する学問で、文化の域を超えた世界的な価値観と自律的・継続的自己向上心を持った、創造性豊かな技術者および研究者を育成することが工学部の目的です。工

学には色々な専門分野があり、その要素を組み合わせることにより現代の文明社会の基盤が築かれています。さらに、医学、農学など他分野との連携・融合により新たな科学技術が創成され、これまで困難とされてきた問題が解決されようとしています。そうした科学技術開発を担う皆さんが、専門分野の深い知識である専門力のみならず、部活・ボランティア・社会を通して人間力の向上をも意識して、充実した学生生活を送られることを期待します。



薬学部長

樋口 駿

ひぐち しゅん

専門分野：薬物動態学



「学び」と「遊び」

薬学部へ入学おめでとう。

九州大学は、言うまでも無く「知」の拠点として存在する。「学び」は、すなわち「知」を創出するために欠かせない過程であり、諸君の本来の目的である。ただ、「学び」だけでは、頭でっかちの、社会性や、感動・感激に乏しい人間が育つだけである。また、IT時代の到来は、「学び」を「広く浅い」ものにもした。急ぐことはない。諸君には「学び」に「深く考える」習慣を加えてほしい。

一方、「遊び」は、「情」と「意」を育むため

には欠かせない役割を持つ。「遊び」に没頭するのは考えものであるが、是非、「遊び」を、読書を楽しむ、学部・年齢を越えて友人や先輩を得る、会話を楽しむ、音楽を楽しむ、汗を流すなどの「時間」と「場」にしていきたい。

薬学部は、両学科とも医薬品を通して医療に関わる学部である。先輩の多くが座右の銘にしていた「よく学び、よく遊べ」を実践し、専門領域でのエキスパートを目指すとともに、是非、感動や感激、人の痛みがわかる人間、思慮深い人間に育つことを願ってやまない。

目的意識を持って、充実した学生生活を

農学部長

今泉 勝己

いまいずみ かつみ

専門分野：栄養化学

農学のミッション

農学部への入学、おめでとうございます。
農学は衣食住、人と地球の現在と未来を考える
全方位の学問です。九州大学農学部等では、ミッ
ション「生命、水、土、森、そして地球から学び
得た英知を結集し、人類の財産として次世代へ伝
え、人類と地球環境の豊かな共存を目指して、進
化する農学を実現する。」を定めています。二十
一世紀に入って重点的に対応すべき農学を取りま
く課題、「世界の人口と食料問題」、「水、環境、
エネルギー問題」、「食の安全、安心に対する関

心の高まり」、「グローバル化のさらなる進展と
アジアの台頭」等が山積しています。本学部のミ
ッションのもとに、このような課題に対して皆さ
んと一緒に取り組んで行きましょう。
皆さんには、生命科学、環境科学、経済科学等
の専門分野に加えて、自然科学や社会科学等の教
養科目をしっかり身に付けていただきたいと思い
ます。品格のある国際人としての素養を身に付け
ることも大切です。皆さんの健闘を期待していま
す。

芸術工学部長

安河内 朗

やすこうち あきら

専門分野：生理人類学



新時代の「技術の人間化」を目指して

芸術工学部へのご入学、おめでとうございます。
日本に芸術工学が誕生して早四十年を迎えました。
「技術の人間化」を理念とした高次のデザインナ
ーの育成を目指し、芸術工学部はそのパイオニアと
して常に先頭を走っています。開学時（当時は九
州芸術工科大学）この理念を実践できる専門家は
世に不在といわれ、ミッシングテクニシャンと呼
ばれていました。未だに謎とされるヒトとサル
の共通の先祖を現すミッシングリンクからきた言葉
です。あれから四十年、芸術工学部は多くのミッ

シングテクニシャンを輩出してきました。そうい
う意味ではすでにミッシングではなくなってきた
います。技術の中味も展開も大きく変貌しようと
している新しい時代に入ってきた君たちには、次
世代の「技術の人間化」をミッションとした新た
なデザインプロデューサーとしての活躍が大いに
期待されています。まずは本学部で君たちが自ら
をデザインし、夢に向かってチャレンジしてくだ
さい。私たちは、そのお手伝いをするためにお待
ちしております。



先輩からの メッセージ

二〇〇八年度
新入生

歓迎

福岡県
精神保健福祉センター

池田 朋子

いけだ ともこ

教育学部
平成14年3月卒業



ご入学おめでとうございます。

思えば私が入学したのは、ちょうど十年前。自分のやりたいことなんてまだ何もわからなかったけれど、ただ興味のおもむくまま、誘われるままに、硬式野球部のマネージャー、テニスサークル、ボランティアといういろいろなことに手を出してしまいました。

でも、今考えるとどれも大切な経験で、社会人になったときにその経験が役に立つことが幾度となくありました。皆さんも迷ったときには、少しでも興味のあることから始めてみるといいかもしれません。それを通じて新たな世界が広がり、気の合う仲間と、学問とはまた違った勉強ができると思います。もちろん学業第一であることも忘れずに。

九大で学べることはあまりにも多いですが、どれだけのものを得られるかは自分次第です。短い大学生活、楽しんでください。

国土交通省
国土計画局 総合計画課



佐溝圭太郎

さみぞ けいたろう

工学部建設都市工学科
平成12年3月卒業



ご入学おめでとうございます。

大学院修士課程を修了してから六年が過ぎ、現在、私は、「全国総合開発計画」に代わる「国土形成計画」という新しい政府の計画を作る仕事をしています。

このような大きな責任とやりがいがある仕事に巡り会えたのは、やはり九州大学に入学し、素晴らしい友人や諸先輩方と出会い、様々なことを経験できたからだと思います。

大学生活は皆さんのこれからの人生にとって非常に重要な時間です。その時間を有意義に過ごすため、海外へ行くことをお勧めします。自分と自分の住む日本を見つめ直し、新しい何かを見つけ、成長できるきっかけになります。将来の夢や目的意識を持って行けば、更なる成長に繋がると 생각합니다。

最後になりますが、皆さんが充実した学生生活を過ごされることを心からお祈りしています。

松下電工クリエイティブ
ドキュメンツ(株)
クリエイティブセンター



中山 肇

なかやま はじめ

九州芸術工科大学 画像設計学科
平成8年3月卒業



ご入学おめでとうございます。

私は現在、カタログなどのプロモーションツールを制作する仕事を社内外の人達と協力しながら進めています。そこでは大学時代の授業に加えて、様々な人との出会いの中で学んだ事が大いに役立っています。

授業は入り口でしかなく、学ぶのは自分次第です。興味を感じ、自らが動けばいろんな世界が広がります。図書館には学術書に加えて先輩の論文などもあり、様々な施設にはその道のプロがいます。教授や先輩にも臆する事なく、いろんな事を聞いてもよいと思います。知る事、考える事で自分自身が磨かれていきます。「人とのコミュニケーション」を大切にしながら、学業はもちろん、サークルやバイトなどいろんな事に自らが主体的に動いて経験することが、何よりの財産になると思います。これからの学生生活を楽しくください。

新入生へ

NEW CAMPUS LIFE START!

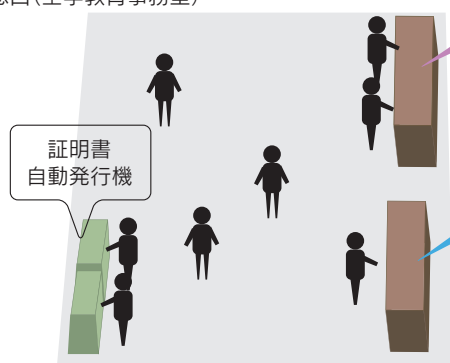
キャンパスライフ スタート

これから一年、新入生の皆さんは全学教育が実施される六本松キャンパスで学ぶことになります。六本松キャンパスでは全学教育の授業を通して、社会の変化に強い柔軟な思考力を身につけ、さらに、深い教養に根付いた人格形成を目指していくことになります。

大学での生活は、高等学校とは様々な面で異なり、慣れるまで時間がかかります。学生生活に関する相談や、授業全般の問い合わせ、各種証明書の発行など皆さんをサポートする窓口【全学教育事務局】が本館一階にありますので、気軽に利用してください。

なお、六本松キャンパスは、平成二十一年四月から伊都キャンパスに統合移転します。

六本松本館1階
学生窓口(全学教育事務局)



授業関係

- ◎その他授業全般に関する問い合わせ
- ◎成績証明書の発行
- ◎全学教育の授業に係る届け出、手続き

学生生活

- ◎学生生活に関する相談
- ◎アルバイトの案内
- ◎奨学金、授業料免除に関する手続き
- ◎通学、在学証明書等の発行

楽しく過ごすには 健康管理が大切

進学や就職など人生の転機となるような出来事を経験すると、心身の健康を損ないやすいことが知られています。新入生の皆さんの中でも、大学入学を契機に初めて親元を離れて一人暮らしを始める人も多いと思います。大学生活の基盤はなんといっても健康です。自分自身の健康について自覚を新たに、あらゆる機会を利用して健康の維持増進に自ら努力してください。大学入学は、喫煙や飲酒などその後の健康に影響を及ぼしかねない習慣を身に付ける契機にもなります。また、初めての一人暮らしでは、外食に頼りがちになり、栄養が偏り、体調を崩しやすくなることでしょう。

本学では、学生の皆さんの健康をサポートする体制を健康科学センターを中心を整えています。身体的、精神的いずれの面でも悩みや異常を感じた場合は、遠慮なくなるべく早めに健康科学センター・健康相談室を利用してください。

六本松本館1階
健康相談室 TEL:726-4809

健康相談室でのサポート内容

- ◎一般診療
- ◎心理健康相談・精神保健相談
- ◎健康測定
- ◎健康に関する図書の閲覧・貸出
- ◎休養室・休養コーナー
- ◎各種健康教室

使いたおそう 図書館

九州大学の図書館では、各キャンパスにある七つの図書館・室と三百八十万冊を超える蔵書、世界中の学術情報へと導くWebサイト、そしてそれらを支える図書館職員が、学生の皆さんの学習を強力にサポートします。

Webサイトを覗いてみよう

図書館のWebサイトは情報の宝庫。各種データベースや様々なツールを使って、世界中の膨大な学術情報や便利なサービスへ効率よくアクセスすることができます。

「図書や雑誌を探す」「論文を手する」「ものごとで調べる」こともでき、図書館にない本をリクエストすることも。様々な用途に大いに活用してください。

図書館ポータルサイト【きゅうとMyLibrary】を利用すれば、返却期限の延長や図書の予約、他キャンパスや他大学で所蔵する図書の取り寄せなどができます。

充実した施設を利用しよう

歴史ある膨大な資料に囲まれる、他人の勉強ぶりに感化されて机に向かう、そんな緊張感や喜びを味わうことができるのも大学図書館ならではのです。

自由にパソコンが使える情報サロンやAVブースなど様々な施設も充実していますので、図書館に足を運んで思い思いの時間を過ごしてください。



海外の大学に交換留学

世界二十四カ国 一〇六の大学で学ぶ

海外留学し、人的交流の幅を広め、異文化理解を深めるということとは、国際社会で活躍していくうえで重要なことです。

九州大学には、提携している二十四カ国一〇六大学への授業料不徴収・単位互換を基本とする交換留学制度があり、毎年五十人前後の学生が海外の著名大学へ留学しています。学部・大学院が独自に協定を結んでいる大学も二十四カ国九十二機関あり、専門領域の修学も可能です。このほか語学力向上を目的として、夏休みに実施する短期語学研修もあります。また大学独自の交換留学のための奨学金を設け、留学に際しての経済面や生活面での支援を行っていますので、ぜひ海外の大学に留学して、自分の可能性を広げてください。

学生が集うサークル



フィルハーモニーオーケストラや茶道部、書道部、落語研究会などの文化系サークル、アメリカンフットボール部や野球部、陸上部、バスケットボール部などの体育系サークル。文化系・体育系を合わせると約百六十あります。五千人を超える学生が日々活発に活動しています。新入生の皆さんもサークルに入って、新たな自分探しをしてみませんか。



アジア総合政策センター特任教授・作家

高樹のぶ子

たかぎ
のぶこ

著名な作家、芥川賞など多くの文学賞の選考委員「高樹のぶ子」さん

緊張したが、開口一番「写真を撮るの？今日は顔がかぶれていてネ。上海でシミ取りの薬ということで試したら合わなかったみたい」。九州大学アジア総合政策センター特任教授としてのプロジェクト「サイア（SIA）」への想いを含めて、何でも体験してみないと分からないとおっしゃる高樹さんの、縦横無尽な活動のエネルギ源まで探るインタビューです。

このインタビューは、二〇〇七年十二月十一日、箱崎キャンパスの事務局貴賓室で行われました。

聞き手

白杵 純一

九州大学広報室長

高樹のぶ子 プロフィール

一九四六年、山口県防府市生まれ。山口県立防府高等学校、東京女子大学短期大学部卒業後、出版社勤務を経て、一九八〇年「その細き道」を「文藝界」に発表、創作活動が始める。一九八四年「光抱く友よ」で芥川賞、一九九九年「透光の樹」で谷崎潤一郎賞、二〇〇六年「HOKKAI」で芸術選奨文部科学大臣賞など受賞多数。芥川賞など多くの文学賞選考委員でもある。二〇〇五年十月から九州大学アジア総合政策センター特任教授。

私にアジアの人と場所という 刺激が与えられたら 何が生まれるのだろう。

人生周回の還暦が生み出した 新たな創造の熱

― 二〇〇五年十月から「アジア指向」を標榜する九州大学のアジア総合政策センター特任教授を務めていらっしやいます。そしてSIAが高樹さんご自身のイニシアティブで始まったわけですが、何かきっかけがあったのでしょうか。

高樹 ごく私的なことですが、去年（二〇〇六）の四月に還暦を迎えました。数えてみるとこれまで五十数冊の本を書いていきます。六十歳になった時、何か新しいこと、お祭りをしようと思っていたのです。つまり、今までの流れのまま行くのではなく、エポックになる何かをやりたいと考えたのですね。とそんな時に、正確に言うとうと還暦の誕生日の半年前に、ア

ジアと九州大学が飛び込んできた。九州大学とご縁ができたのです。

― アジアをテーマにした活動を始められることについては、予感のようなものがあつたのですか。

高樹 二年前というのはちょうど中国で反日運動があつた頃です。政治経済の情報やデータ情報は、ともするとネガティブな感情を生み出します。私たちも中国で何万人という人が反日デモに加わつたと聞くと、それだけでムツとしちゃうところがあるでしょう。私はそうしたマスの情報による知識よりも、人々の個としての日常が伝わることのほうが大事だと感じていて、それは小説や映画といったサブカルチャーの役目だと思つていたのです。

私自身は小説家で、感性で生きてきた人間です。アジアに関する

SIA

高樹のぶ子アジア総合政策センター特任教授が、アジアの文学作品を読み、現地へ行って作家と交流し、文字通り「アジアに浸る(Soaked in Asia)」ことで感じた世界を様々な方法で発信するマルチイベント。二〇〇六年から五年をかけてアジア十カ国を巡る予定。二〇〇七年度から大学院共通教育科目となり、参加学生には単位が認められる。

web SIA : <http://blog.goo.ne.jp/info/websia/index.html>

知識というのはほとんど常識的なもので、九州大学のお役に立てるとしても、アカデミズムとはまた違った形になるでしょう。アカデミズムの土台はリサーチですが、自分の感性というフィルター、アンテナでキャッチしたものを伝えるという役割があってもいいのではないか、それだけではもちろん

いけないが、両方あっていいのではないかと私は感じていて、大学もそこを求めておられるというところでしたので、プロフェッサーをお引き受けしました。

― でも、みんな驚いたと思うのです。五年でアジアの十の国に出かけ、それを創作や公開イベントに結びつけるというのは、即座にはピンとこなかった。記者発表でも、「五感でアジアに浸り表現する」ということがなかなかイメージしてもらえませんでした。

高樹 私の場合、思想的なものがあり、あるいは生まれ育った土壌から出てくる主張というものがあつて創作するというよりは、私自身が鏡のようになって時代を反映し、刺激に反応することで小説を書いてきた人間なのです。その流れからいくと、私にアジアとい



う刺激が与えられたらどういうものが生まれてくるか、私自身も楽しみでしたし、自然なことでした。

芸術か娯楽かではなく、心の情報発信としての文学

― 次回のテーマとなる上海での取材を終えられたばかり。イベント開催を含めて心身の大変なエネルギーに感じします。

高樹 すでに五つの国を訪問し、予定の中間地点まできました。ほとんど自分らしいSIAが固まってきた感じです。SIAのサブタイトルを「アジアの心の情報を発信する」としているのですが、情報発信とひと言に言っても多メディア。二〇〇七年の六月に「web SIA」ができ、発信基地としてはひととおり完成を見ました。最初は「よくわからない」という人たちを一人一人口説いていったのですが、私の口説きに最初に落ちてくださったのが九州大学で、九大に受け入れていただいたあとは民放のRKBがドキュメンタリー番組にして、イベント形成につ

いても協力してくださるということになりました。また、同時期に文芸誌の『新潮』にも説明し、「それは文学にとつてもとても面白い試みだし、意味のあることだ」ということで「アジアの作品+私の作品」の二作を同時発表することもできました。

― 「心の情報」を高樹さんは大きなキーワードにされています。

高樹 文学自体、今は芸術かエンターテインメントの二つしかないような感じですが、もうひとつ心の情報を発信するという役割が可能なんだということに気づいてほしくて。それは日本国内だけの閉塞的な文学活動に外の風を入れることにもなるし、九州大学であれば、教育と研究以外の第三の目的になるということ、協力者を増やしていったのです。

上海蟹 レストランオーナーの異様に腫上がった手

― ここまで来られて、高樹さんのアジア観に変化がありましたか、

あるいは新しいものが芽生えてきたのでしょうか。

高樹 全部の国に行ったわけではないですし、また、総論では語れないものかもしれません。その国の小説自体も全部理解するためにはやっぱりその国に向いていて、その風に吹かれてみないと分からないということがあって。

行った先で、読むべき小説を改めて読むのですが、すると、場面や言葉が立ち上がってくる、実感されてくる、ということをしばしば経験します。

なるべく既存のイメージでないものを探していきたいという想い

は常にあります。そう言いながら、その国の歴史や伝統は動かし難くある訳ですが、ベトナムといった戦争というような既存のイメージによるものではなく、「こんなものがこの国の心の形としてあるの？」といったものを探してきて紹介したいし、「今」の精神土壌を見たいと思っています。

― 台湾では海に潜って、命の線を越えるような目にも遭っていらっしゃるようです。今回のSIAにしてもweb SIAの開設にしてもそうですが、分らないもの、普通は躊躇するようなことにも、高樹さんはどんどん飛び込んでい



かれますね。

高樹 そうですね（笑）。社会の中にいると、社会的な座標軸で物事を定置してしまいがちでしょう。お金持ちだとか貧乏だとか、社会的な地位があるとか権力があるとか、女性に関して言うなら美人だとかそうじゃないとか、性格がいとか悪いとか。そういう社会的通念としてある座標軸をゼロにして、何もない所から人間だけじゃなく物事すべてを見るのが、新しい物を発見するための視線だと思います。

っています。私自身もそうですが、だんだん年齢を加えて経験も豊富になっていくと、自分の中に自分で作り上げた座標軸が揺るぎない形で存在していこうとする訳ですが、いかにそれを壊し続けていくか。「これはこんなもの」でなく、「本当にそうですか？」と常に疑問符をつけながら相対していく視線はとても大切です。

今回上海では、上海蟹のレストランで大成したオーナーにも会いました。冬場の上海といったら



上海蟹。オーナーは料理を一生懸命説明してくれました。私はもちろん料理にも興味がありました、一番面白かったのはオーナーの手。

それは膨れ上がっていて、ボコボコ。まさに蟹の甲羅みたいになっているのです。蟹のはさみの力は強いので扱っていると傷が絶えません。深手になるほど蟹に力があり、鮮度が高いことが分かるというのです。おそらくそのオーナーは頑張っただけじゃなくて、想像だけでも裏の手段も使って成功したのかもしれませんが。蟹を通して一人の人間の生き様や上海の歴史を感じることもできる。美味しい上海蟹にみんなが見てきたものを引っぺがして、いかに自分だけの目で見るといふこと。そうすると同じ物を見ていても常に新しい発見があるのです。

— そういう感覚は子どもの頃からお持ちだったのですか。

高樹 そうそう。人が言うことを「そうですね」とはあまり聞かず、いつも自分流でした。ワガママな生き方もしてきた。でも、小説と

いうものはそうやって書かざるを得ない、そういうものだと思います。

— 小説を書き始められたのは自然なことだったのでしょうか。作家を志したきっかけのようなものがあつたのでしょうか。

高樹 きっかけは言おうと思った。いろいろな出てくると思うのです。三十代に入ってから離婚したり、後に再婚しましたが、その時は一人で生きてこうと思ったり。そんな予測不可能な出来事が予期せずながらあつた結果と言えるかもしれません。だけど、ずっと昔から物を書くという事は好きだったし、書くことでしか自分の一番大事な事は取り出せないという自覚はありました。『マイマイ新子』という小説では、主人公の新子は自分がいいと感じたものを、「ほらいいでしょ」と見せたい、伝えたい、共有したいと相手に働きかける。それは芸術の本質、表現欲、創作意欲の基本で、私には子どもの頃からあつたように思います。

— 中学、高校の頃、どんな作家

が好きでどんな本を読んでおられましたか？

高樹 自然と人間が対峙して人が敗れる。そういう小説が好きで、感動していました。立派な女の子や男の子の話、偉人伝といったものはあまり読まなかったですね。

— 人が敗れる？

高樹 例えばヘミングウェイの『キリマンジャロの雪』とかモームの『雨』。自然があつて自然と格闘しながら人間は生きているけど、自然に敗れていくのが人間であり、その敗れ方に感動する訳です。

田舎の子どもでしたから、自然の大きさは知っています。自然は大変。自然は素晴らしいなんてそんなに簡単に言うことはできないですね。ですから、アジアに行つて自然が直接的に人間に影響を与えている姿を見ても驚かないし、「これ、ちょっと前の日本だな」と思うシーンにもたくさん出会います。例えば、今回上海でたくさん家庭を訪問し、一家に伝わる食べものなどを取材させてもらっ

たのですが、十二月だというのにどの家に行っても暖房が入っていないのです。昼間でも気温七、八度ですから福岡よりぐんと寒い。経済的には中の上レベルの家庭ですが、みんな厚着をして寒さをしのいでいるのです。私たち日本人はエアコン生活に慣れてきているから、暖房をつけないと体だけではなく心がじかむでしょう。でも、上海の人はそんなことじゃ心はかじかない。「ちょっと前の日本」がそこにあるのです。

楽しんだものが 一番いい結果を生む

— SIA上海編は三月二十二日にイベント開催予定。これから先、SIAで高樹さんはどこへ浸り、どこへ潜つて行かれるのでしょうか。
高樹 一つ一つの国を訪れ、知らないところで知らないものに触れることが楽しみです。この考え自体、大学的ではないのかもしれませんが、楽しんだものが一番いい結果を生むということが私の体験にあります。自分が高揚して発

信したものでないと相手に響かない。あの作家と会える、あそこへ行くのは楽しそうだなという気持ちでSIAをやつていくエネルギーになります。自分の好奇心の器の大きさに応じてしか収穫できない。最低限の情報はインプットしていきますが、固定化されたmust should 情報だったら、それは他のルートでも手に入ります。そうではなくて、私が行かなければ絶対に手に入らない情報、客観的な正確さに基づくものではないかもしれないけれど、感性を通して手に入れたそういう情報を発信することが私の役割だと思っています。

— 次々と作品を発表され、芥川賞をはじめとするいくつもの文学賞の選考委員を務められ、そしてこのSIA。人生を疾走されているように見える高樹さんのエネルギーはどこから生まれるのだろうか。と密かに畏れていましたが、「好奇心」がキーワードでしょうか。
高樹 好奇心と、新しいものに触れた喜び。好奇心は、未知のものがあるから生まれます。未知のも

のが最も面白いし、世の中未知のものばかりだから、好奇心は尽きません。ことに一番未知なのは人間です。人間くらい面白いものはないけれど、これがなかなか一筋縄ではリサーチがきかない。文学の基本には、個々の人間の面白さがあります。個の普遍と言いますが、個々の特別な存在がいかに多くの人に通じる普遍性を持つかということが大事になってきます。とにかく、人間と人間が生きている場所というものはすごく面白い。

— 最後に、大学生や高校生にメッセージをいただきたいと思います。

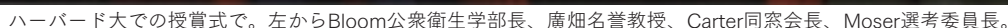
高樹 今の若い人って、迷った時に一歩踏み出せない人が多い気がします。迷ってどうしようかと戸惑った時に、ポンと片足出してみ、勇気が大事です。でもその時、中途半端にしないこと。中途半端だとかえって転がってケガをするから、思いきって体重をかけて足を踏み出すのです。体重かけて踏み出すことで、「え、何、これ意外と大丈夫。歩いていけるかも」

人間と、人間が
生きている場所というもののほど
面白いものはない。



という自信が出てくる。出しかけ
ては引っ込め、出しかけては引っ
込めしていると、永遠にそのまま
ですよ。これは恋愛についても他
のあらゆる事柄についても言える
こと。今、勝ち組、負け組と言わ
れるけど、勝ち組の人たちは、体
重をかけて一步を踏み出した経験
を持っていますね。思いきって踏
み出してもひっくり返る人はいら
ないでしょう。でも、それを繰り返
しできるというのが、若さだと私は
思うのです。

九大人が伝える
進化文化する
遺伝子
シリーズ九大人
インタビュー



富廣
雄畑

ひろはた
とみお

廣畑名誉教授（医学部）をお訪

昭和六年広島県尾道市生まれ。小六まで台北市に居住し、昭和十九年県立中学修猷館入学。昭和三十五年医学部医学科を卒業し、聖路加国際病院で一年間研修。研修後九州大学の公衆衛生学講座に勤務。昭和四十年六月ハ―バード大学公衆衛生学修士、昭和四十三年六月同大学博士。昭和四十五年国際連合高等科学専門官（P5）。ハワイ大学教授・同がんセンター疫学部長、久留米大学教授などを経て、昭和六十年一月から九州大学医学部教授。昭和六十三年にはハ―バード大学客員教授（疫学教室）。平成四年一月から平成七年一月まで、日本疫学会の初代理事長を務める。英国王立医学协会会员。平成七年三月退官。父は九州帝国大学医学部医化学教室教授であった故廣畑龍造名譽教授。

※P5..1から5までである専門官ランクの最上級。

日本のがん予防のチャンピオン（ハーバード大） 現代の食生活を憂える

病気の治療より予防を と渡米

― まず、九州大学に入られるまでのことをお尋ねします。

廣畑 台北に小学六年までいて、父が九州帝国大学の医化学教室に迎えられたので福岡へ来ました。当仁小学校に転入したのですが、それまで東京言葉で生活していましたので博多弁には戸惑いました（笑）。九州大学医学部を昭和三十五年に卒業し、翌昭和三十六年に、倉恒匡徳（くらつね・まさのり）先生がNCI（米国立癌研究所）から帰って教授に着任されて間もない九州大学医学部公衆衛生学講座に入りました。そこは研究費が豊富にあったのも魅力でした。

― それからハーバード大学に留学されますが、どのような目的で

渡米されたのですか。

廣畑 倉恒先生が、当時の日本の医学者が「疫学」に無関心であることを残念に思っておられました。私も、病気の治療よりまず予防に努めるのが賢明と思っていましたので、疫学の世界的な権威であったハーバード大学のマクメーン教授のもとに、ロックフェラー財団の援助を得て留学し、博士課程まで進みました。これまでの私の業績は多くの方々の援助があつて成ったものですが、特に、このとき米国に送り出してくださった倉恒先生には深く感謝しています。

― 修士課程は首席で卒業されたと同じでしたが、ハーバード大での学位取得は容易ではなかったことと想像されます。

廣畑 そうですね、いわば昼夜を分かたず勉強し研究しました。その一方で、世界から集まった優秀

な同級生との交流は刺激的で、その後の私の大きな財産となりました。特に修士の級友は多士済々でした。ノルウェーから来ていた女性医師、グロー・ブルントラントは、後にノルウェーの首相を十年間、さらにWHOの事務総長を務めました。クウェートから来ていたアブドゥラ・アラワディは、クウェートの大臣になり、イラクがクウェートに侵攻した時には、「我々は最後まで闘う」と熱弁をふるっている姿をテレビで見ました。同室で勉強したジョセフ・フラウメニは、米国のNCIの副所長兼疫学部長で、今なお素晴らしい仕事をしています。

研究を進める上でも人とのつながりはとても大切です。関をつくるというのではなく、優れた人たちを知っていることが自分を高める上でも、世界で活動していく上



でも非常な助けとなるのです。その意味からも、ハーバードで学んでよかったと思っています。

放射線発がんや 食生活とがんの関係を 世界に示す

― ハーバードで博士の学位を取られた後、特に「がんの予防」に関する研究で成果を上げていかれ



ます。

廣畑 昭和四十五年、国連に高等科学専門官として招かれ、世界中の研究例を集めて「放射線の人体影響（発がん）」をまとめました。約三年かかった大変な作業でした。これは国連総会に報告され、世界で初めての放射線量別の発がんリスクを推定した報告として、非常に高い評価を受けました。

— レントゲン写真などは、健康に影響する可能性があるのでしょうか。

廣畑 年に一回程度、胸のレント

ゲン写真を撮るための放射線量はミニマムで、健康上は無害です。

また最近では、一九九七年に、世界の著名な科学者たちと「食生活とがん予防に関する報告書」と「食生活指針」を作成しました。正確には、「食物、栄養とがんの予防…世界的見地から」という報告書であり、十四か条の「食生活指針」です。スポンサーは「世界がん研究基金」と「米国がん研究財団」です。私は世界中から選ばれた十五人の専門家による委員会の一員としてそれに携わりました。

さらに十年後の昨年、もっと広範な改訂版が発表され、これにも世界の二十一人の委員の一人として携わりました。完成まで五年の歳月がかかりました。五〇〇ページ以上の報告書です。

これらは、きちんとした科学的根拠に基づいた、食物とがんとの関係についての comprehensive で、世界で初めての報告書であり勧告です。世界的に大きな反響を呼びました。

— どのような食生活が、がんを防ぐのに効果があるのでしょうか。

廣畑 食塩の摂取は一日五グラム程度にするよう勧告していますが、日本人は今でも十一グラム摂っています。野菜と果物の勧告は毎日四百グラム以上。実際の摂取量はその三分の二です。できるだけ植物性の食物をいろいろな種類を食べること、そして標準的な体重を保つ、これが基本です。今の若い人たちの食生活を見ると、動物性の食べ物が多いのに野菜や果物が少なく、一方では運動しない。栄養成分が少なくカロリーの高いポ

テトチップスやドリンク類を多く摂る。将来どうなるだろうかと思っています。生活の基本が乱れてきている。食べ方として、朝はきちんと食事をする、食事はバランスよく、そして一家そろって食べる。これは平凡だが大事なことです。



ハーバード大学公衆衛生学部の2007年卒業式に同窓生代表として列席

ハーバードから賞 継続する活動

— これまでの業績に対し、二〇〇七年にはハーバード大から賞を受けられました。

廣畑 ハーバード大学公衆衛生学部から、顕著な業績をあげた卒業生に贈られる Alumni Award of Merit をいただきました。理由は、「日本におけるがん予防への先験的業績と世界の公衆衛生への貢献」というものでした。同学部の日本人卒業生はかなりいますが、この賞を頂いた日本人は私が初めてということ、光栄に思っています。

授賞式は、六月の卒業式の日翌日でした。卒業式に私も列席したのですが、メインスピーカーはご存知のビル・ゲイツさん。彼はハーバードを中退し、友人とマイクロソフトを始めました。彼の財団は、毎年二〇〇〇億円を世界に寄付しています。その翌日の受賞式には、日本人の初受賞ということで、ボストンの日本総領事も臨席してくださいました。

— おめでとうございます。外国の大学は、卒業生を大事にすると感じます。最後に、最近思われること、気になることなどお聞かせください。

廣畑 私たちはハングリーな時代に勉強し研究してきました。今は豊かですが、中国などの学生や研究者を見ますと、昔の我々を見るようです。世界での競争に勝つためには、我々はもう一度ハングリー精神を取り戻す必要があるのではないかと思います。そして、サイエンスの上でも倫理は大切です。科学者は紳士であるべきです。私が学生のころ、ある教授は「君たちを信用する、君たちは紳士だから」と言って、監督無しで試験をされました。論文偽造などは言語道断です。生活面でも仕事の面でもそういう基本が大切です。

— 先生の頃と比べて、大学もだいぶ変わったと感ぜられるのではないのでしょうか。

廣畑 大学院重点化で、教室名がちよつと見ただけでは何をやっているのか分からなくなりました。



授賞式の後。両脇は日本総領事ご夫妻、左から二人目は久留米信愛女学院短大教授である一代（いつよ）夫人。

当初は仕方のない面があったとしても、いつまでもそれを使っているのはどうでしょう。明治以来の日本の発展は、広い視野を持った指導者によるところが大了。昭和の戦争では指導者に視野の広さが欠けていた。そして今問われているのは国際的視野の有無で、これは各組織の発展、ひいては国の発展に大きく影響します。大学は

もつと自主性を持って、じつくりと将来を見据え、自分の考えで行動するべきでしょう。大学がきちんとした情報を社会に発信し、社会の役に立つという存在感を示し、より一般から信頼と尊敬を受ける、それを強く望んでいます。

（このインタビューは、二〇〇八年一月三十一日、廣畑先生のご自宅で行われました。）



生体防 御医学



生体防御医学研究所 准教授

白根道子

しらね みちこ

FRONT
RUNNER

シリーズ研究

ふろんと
ランナー

「ふろんとランナー」は、九州大学の研究の最前線をインタビューで紹介するシリーズです。シリーズ第七回目は、生体防御医学研究所の白根道子准教授に、法学研究院の七戸克彦教授と法学部三年春明航太さんが聞きます。

聞き手

法学研究院 七戸克彦 教授
法学部三年 春明航太

VOL
7

脳の構成単位である 神経細胞神経突起形成の メカニズムに新知見

強い衝撃、そして興奮。

プロトルーディン発見の瞬間

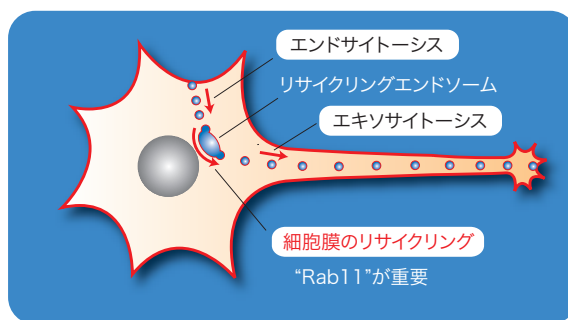
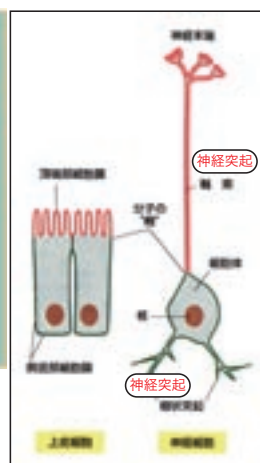
春明 まず神経突起とは何なのか、説明していただけますか。

白根 人のからだの中にはいろいろな細胞がありますが、その中でも神経細胞は脳の構成単位の一つで、とても特殊な細胞です。まず形が他の細胞とは全然違っていて、長いものだと1m以上の神経突起という突起を持っているのです。長い突起には重大な意味があって、細胞そのものは頭のテッペンにあるのに、そこから出る信号を足の先まで届けるという文字通りの離れ業を演じます。今、

進めている実験はそれほど大事な機能を担っている神経突起が伸びる仕組みを調べようということから始まったものです。

春明 先回りするようですが、今回の発見は病気の治療にも貢献するのでしょうか。

白根 現代にはいろいろな病気がありますが、中でも大きなものが神経疾患と言われます。麻痺して動けなくなるとか、動かしたくないのに震える、とかですね。今回の神経突起が伸びるメカニズムの研究は、例えば脳卒中や脊髄損傷などによる身体麻痺の治療法として期待されている「神経移植」の実現に可能性を与え



形成に重要なタンパク質であることが明らかになりました。

春明 何が起るかわからないけどこうやってみようというのは、普段からよくあることなのですか。

白根 何か新しい分子を見つけた時に行う基礎的な実験はあります。細胞に発現させてみて、どんな分布をするか、細胞分化や増殖の状態、死滅しないかとか、細胞に対する影響を見る実験ですね。プロトルーディンも比較的基礎的な実験で発見されたということです。

春明 それだけに興奮しますよね。

白根 かなり昂ぶりますね。私たち毎日毎日のすごい数の実験をこなしていますが、こんな楽しい発見があるのは、何十個に一個、いえ、何もし起らないのが当たり前と言っているほど（笑）。何十分の一で変わった現象があつて、それをきっかけに研究が展開していくわけで、何か

が始まるというか非常に興奮した瞬間でした。

春明 すごい発見になるという確信を持ったのもその時ですか。

白根 それはなくて、最初の一年くらいはただ面白くて、なぜこんなふうに細胞の形態が変わるのか突き止めたかった一心でした。そのうち教授に「これはちゃんとしたメカニズムがわかれば、いい仕事になる」という邪念というか、欲を持つよう吹き込まれて（笑）、だんだん本格的な仕事に持っていくたという流れです。純粋に面白から調べるというのは最も大事なことです。それを第三者にわかるようなペーパー（論文）にして発表することも科学者としてすごく重要な使命。そこまで持っていかなければと思うくらい、いい発見ではあったと思います。

研究者としての自由を支えてくれるもの。それは覚悟と志し。

春明 二〇〇六年には米国科学雑誌「サイエンス」にも掲載されています。この雑誌は世界でもっとも権威のある学術雑誌の一つで、掲載されるのは投稿論文の10%以下だそうです。



聞き手：七戸克彦教授

ですね。

白根 今回の研究はペーパーにするまで四年かかりました。そのもう一つ前に三年以上かかった大きな仕事があつたのですが、この時は胃潰瘍にもなりました（笑）。最後はもうノイローゼになりそうでした。

七戸 失礼ですが、理系の研究というのとはそんなに大変なのですか。

白根 いいペーパーを書いてキャリアアップしていかないといけないし、いい雑誌に載せたいという思いも強く精神的なプレッシャーはかなりあったと思います。雑誌に投稿すると、通常レフリーから「あの実験しないと載せてあげないぞ」と言われます。ところが、言われたとおりの実験結果がそうそう出るわけはなく、毎日毎日結果が出ないとだんだん胃が痛くなってくるんです。でも、研究者が論文のために全てを注ぐのは宿命

みたいなもの。いくら面白い発見をしても、勉強して知識があつても、論文にしなければ自己満足、趣味の世界にすぎません。それだけに論文になった時には心底ほっとした記憶があります。

七戸 文系にはわからないプレッシャーですね。この道に入るきっかけは何かあつたのですか。

白根 私はわりと悪い例で、あまり何も考えずに大学に入って製薬会社の研究所に就職しました。バブル絶頂期で、基礎研究をさせてくれる面白い時期だったのです。ところが、バブルが弾けて研究者にも商感覚、計数意識が求められてきました。企業だと高いお給料をもらう権利の代わりに義務もあるわけです。それでカッコよく言えば、研究者としての自由を求めてアカデミックに移ったという経緯です。



聞き手：春明航太さん

春明 一九九八年に退職し、ポストドクター（博士号取得者）として九州大学へいらっしゃっています。民間研究職との違いは大きかったですか。

白根 大学のほうが断然自由度が大きいと思います。特に私の研究室は先生のテーマと外れていても面白ければ、いいサイエンスにつながるのであればやらせてくれるという風潮があつて、非常にラッキーでした。ポストドクターの間はお給料も低いし、不安定な環境ですが、好きなことができる。そこは大きな違いだと思います。

春明 できるだけ自由裁量のある仕事をしたいとは思いますが、高校生の九州大学の新生入生などが、若い人たちに将来の仕事選びのアドバイスをいただければ。

白根 私のような研究者は好きな道で好きにやっているように見えるかもしれませんが。でも、研究職に入る時は私も一大決心が必要でした。というのも企業人としてわりと安定した生活から、いろいろなゆとりとはほとんど無縁の生活に突入するわけですから。もちろん、楽しみもあるのですけれど、しんどい実験はしな

くちやいけない、毎日勉強しなくちゃいけない、休みもない。それを覚悟のうえで、人生かけて、絶対後悔のないように、全てを犠牲にして研究に打ち込もうと決意して選んだ道なのです。逆に覚悟なく入ってくると、ただでも辛い事は多いので、苦しいと思うのです。自由だけ、楽しいことだけ求めると、忍耐力が持ちませんから、志しはそれなりにあつたほうがいいでしょうね。でも、そういうものって人に言われて得るのではなく、自分の何らかの経験、考えがあつて、自分の内から溢れ出てくることだと思つたのです。もっと面白い、すごい仕事をしたいとか、そういうのつぴぎならないものが湧き上がった上でチャレンジするものかもしれません。十代の人たちにはちよつと難しいかもしれませんが(笑)。

春明 参考になります。最後になり

ましたが、先生のこれからの目標は。
白根 今まさに解析しているところですが、マウスを使った実験でプロトルーディン遺伝子が発現すると、いくつかの変な表現形が出ます。代表的なものが、ネズミなのに怒ったネコのように足が曲がらず立ったまま歩いちゃうとか、情動異常のようになつて、そういう表現形になるのかをこれから調べていこうとしているところです。

春明 今後はプロトルーディンの異常がどうなっていくかというのがテーマになるんですね。

白根 麻痺が起こる時の原因解明をしたいというのが一つ。それと胎児がお腹の中にいる段階で神経管が発生するという仕事もしていて、そうした基礎的な部分をもうちよつと深

く知りたいというのがあります。そのあたりもきちんと研究を深めて掘り下げていく計画です。



白根道子准教授



前列左より、白根道子准教授と、聞き手の春明航太さん（右）、七戸克彦教授（後列）。

白根道子 准教授 プロフィール
大阪大学・理学部・生物学科卒業。
一九九九年博士取得（東京大学・薬学部）。日本ロシユ研究所・研究員を経て、一九九八年より九州大学にてポストドク。日本学術振興会・特別研究員、二十一世紀COE・上級研究員の後、二〇〇三年よりさきがけ研究者、二〇〇四年より助手、二〇〇六年より現職。

米国CNSIとの ジョイント シンポジウムを UCLAで開催

世界最先端の研究交流

初日の二十九日（火）、CNSIのDirectorであるLeonard H. Rome教授から「このシンポジウムを契機に両大学の世界最先端の研究交流がさらに有意義な実り多いものとなることを願う」との歓迎の言葉があった後、文部科学省高等教育局大学振興課の奥博貴大学院係長から同省が進めるグローバルCOEプログラム（本学グローバルCOE「未来分子システム科学」リーダー）から九州大学グローバルCOE「未来分子システム科学」の紹介、小寺山亘理事・副学長による「九州大学における

産学連携と研究戦略」と題する基調講演、そしてUCLAのOmar Yaghi教授による「Pores without Walls for Clean Energy」と題する基調講演が行われ、活発な議論が行われました。

若手研究者が世界に羽ばたく きっかけに

初日の午後は、両大学の研究者からの研究発表が七件行われ、活発な質疑応答に終了しました。夕刻よりピザを食べながらリラックスした雰囲気の中、双方の若手研究者や大学院生によるポスターセッションが行われました。ポスターセッションの参加者は、自分の発表内容の要点を

九州大学とカリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）は二〇〇七年五月に大学間学術交流協定を調印しており、本工学研究院の応用化学部門とUCLAのCNSI（California Nano-Systems Institute）も併せて学術交流協定を締結しています。

二〇〇八年一月二十九日（火）、三十日（水）、九州大学のグローバルCOE「未来分子システム科学」とCNSIの研究者が共に集い、世界最先端の分子素材やナノシステムに関する研究について討論し、今後のさらなる交流に資することを目的に、米国・UCLAキャンパスで「Joint Symposium on Molecular Nanosystems」と題するシンポジウムを開催しました。

それぞれ二分間の口頭で紹介し、その後、自らが作成したポスターの前で、詳細な研究内容や今後の可能性などについて、UCLAの学生や研究者と熱心に意見を交わしていました。九州大学の若手研究者にとつては、英語で自分の研究を説明し海外の研究者と深い議論をする非常によい機会となったようで、参加した大学院生の一人は「今後はUCLAの研究室を実際に訪問し、さらに議論や共同研究を進めたい」と意欲を語っていました。そのあと直接研究室を訪問したグループもあったようです。

二日目の三十日（水）には、本学の新海征治工学研究院教授による



君塚信夫工学研究院教授による本学グローバルCOEの紹介

"Supramolecular Architectures Created Using 'Polymers' as Building Blocks" と題する基調講演、UCLAのJeff Zink教授による"Meso-structured Nanoparticles and Molecular Machines for Drug Delivery and On-Command Release" と題する基調講演が行われ、会場を埋め尽くした多くの研究者や学生から活発な質問が出されていました。このセッションには、分子機械、超分子化学の分野を新海教授とともに先導するCNSI初代所長のSir Prof. J. Fraser Stoddart (Northwestern University) がシカゴから特別に駆けつけられ、新海教授を紹介しエピソードを披露するという心暖まるハプニングがあり、会場を驚かせました。

新たな国際産学連携の 創出に向けて

二日目の午後は、Ken Polasko氏 (Director, Office of Intellectual Property and Industry Sponsored Research, UCLA) をモデレーターとして、高田仁本学知的財産本部技術移転グループリーダー、Jeff Green氏 (NanoH206 Chief Executive

Officer) Dina Lozofsky氏 (CNSI, Director of Technology Commercialization) による国際産学連携に関するパネルディスカッションが行われました。両国の産学連携の取り組みについて相互に意見発表した後、今後取り組むべき課題や解決策について、企業からの参加者を交えながら熱心な意見交換がなされました。

シンポジウムの閉会に際して、今後この交流をさらに進めていくために、次回は九州大学でジョイントシンポジウムを開催することや学生や若手研究者の相互受け入れなどについて意見交換がなされ、お互いに積極的に進めようということになり、盛会の内に終了しました。

舞台は世界に

シンポジウムが終了した翌日、若手研究者や大学院生らは北カリフォルニアのシリコンバレーに移動し、Google本社での見学と昼食、続いてスタンフォード大学で眠りの研究で有名な西田教授の研究室見学、そして最後はIBMアルマデン研究センターを訪問し伊藤博博士の案内で素晴らしい研究施設見学と研究内

容の紹介をつけました。学生たちは、Googleの新しい事業展開を目の前に見て、世界の第一線で活躍する日本人研究者たちに直接触れ、自分たちの舞台は日本だけでなく世界に広がっていることを強く実感したようで、多くの質問を投げかけ自分達の可能性を探っている様子でした。一日の訪問でしたが、この研修旅行で世界の舞台で活躍するために必要な心構えや考え方について多くの示唆が得られたようです。

今回のジョイントシンポジウムならびにシリコンバレー企業訪問のコーディネートを行った松尾正人カリフォルニアオフィス所長は、「九大生には英語で自分を表現し、世界的な視野で物事を考える真に優秀な人材に育ってほしい。カリフォルニアオフィスとしても今後も様々な施策を展開し応援していきたい」と期待と抱負を述べていました。



若手研究者によるポスターセッション



Google本社の見学



熱心に聞き入るシンポジウム参加者

新海教授も最終講義

二月になり、今年度で定年を迎える教員の最終講義が続いています。

平成二十年二月九日（土）には、工学研究院の新海征治教授の最終講義「サイエンスにおける偶然と必然、進化と成熟」が、伊都キャンパスで行われました。

新海教授は、ナノテクノロジーの基盤となる基礎概念のひとつである「分子機械」の最初の例となった「光応答性分子」（光などの刺激により分子の構造を変化させることにより、他の分子や原子を捕捉する機能を付与すること）や、これを分子の集合体の形や機能をコントロールするシステムへと展開した業績などで世界的に知られており、ノーベル化学賞に最も近い研究者の一人とも言われています。

この日、新海教授は、四百人を越える国内外からの研究者や教え子、学生、そして取材に訪れたマスコミ各社を前に、これまでの研究生活やその時々の仕事内容を中心に語りました。

講義の後、これからの抱負を記者に訊かれて、四月から特任教授として九州大学に在籍することになっている新海教授は、「日本は今下り坂の予感がある。これを跳ね返せるのは次世代の人たち。日本は、その次世代にチャンスを与えるシステムが必要。私はこれからも目の前のテーマに全力で取り組み、若い人を育てていきたい」と答えました。



学生や若手研究者へのアドバイス

●自己表現の機会には積極的に参加せよ。講演の聴衆の中に、将来を握るキー・パーソンが必ずいるから、常に気を抜いてはいけない。

●外国人は「What's your chemistry?」とよく聞く。あなた自身のオリジナルテーマを聞いているのです。

●研究には総論と各論がある。根幹に関わる、分野を越えてインパクトを与えられる総論をぜひやってほしい。

●サイエンスには、発見、進化、成熟のステップがある。新発見に挑戦することは、「high risk」だが「high return」でもある。ぜひここに挑戦してほしい。

●研究には自己増殖能力がある。高い山に登るとその向こうにはもっと高い山があるのと似ている。

●いろいろな意見は参考に止め、最後は自分で決断し自分で責任を取る。自分の目で見、自分の手で触ったものだけが真実という意識が独創を生む。

●サイエンスの議論から逃げる者は研究者ではない。

泉信也大臣が 箱崎キャンパスで講演

平成二十年一月十一日（金）、泉信也国家公安委員会委員長・内閣府特命担当大臣（防災・食品安全）が、箱崎キャンパスの旧工学部大講義室で、「このごろ思うこと」と題して講演しました。泉大臣は、昭和三十七年三月、九州大学工学部土木工学科卒業。かつて講義を受けた大講義室で一時間にわたり、工学部の学生や教職員など約四百名に、「岐路にあるかもしれない日本を、今なら皆さんの力で創り直すことができる。学問に勤しむとともに社会に目を開き、広い視野で判断して国を思い、地域で、そして中央に出て日本のリーダーとして活躍してほしい」と静かに時に熱く語りかけました。



QBS生まれの有田焼酎酎にデザイン賞

有田焼酎元と広告デザイナーのコラボプロジェクトのきっかけは、実家が有田焼酎元のQBS（九州大学ビジネス・スクール）二期生久保田氏の「低迷する有田焼を救う」をテーマとする論文でした。「個人がデザインに参加できる有田焼」というコンセプトが魅力的で、久保田氏（兄）が社長を務める久保田稔窯業所（有田）へ同僚三名と訪問。現状打破で窯元さんとデザイナーが一致福岡市内にてコラボ展を実施。十二デザイナー十三作品を手弁当で製作しました。

その後、佐賀県のビジネスチャレンジ落選等紆余曲折あり、「このプロジェクトも終わったか？」と思った矢先に、会社の同僚がボトルデザインの仕事を持ってきてくれました。新たな出会いがそこにあり、その結果「八起（やおき）」が生まれ、ナショナルアワード銀賞、ドイツのレッドドット賞、日本ではグッドデザイン賞と福岡産デザイン優秀賞をいただきました。プチプロジェクトXの詳細はブログで。

<http://blog.goo.ne.jp/kaneko0420/>

QBS二期生金子（広告会社勤務）



芋焼酎「八起」750ml
（株）ルネサンス・プロジェクト

welcome to Kyushu University

ようこそ九州大学へ



尚州大学校総長（韓国）

平成二十年一月十八日（金）、秋泰貴（チュ・テグイ）尚州大学校総長が、来日の折、梶山総長を表敬訪問しました。

尚州大学校は、本年三月に慶北大学校（大学間交流協定締結校）と統合予定であることから、九州大学と九州芸術工科大学との統合時及びその後の状況について、梶山総長からお話がありました。

また、日本の国立大学法人化の状況、特に予算面（外部資金の獲得等）について意見交換が行われました。

同窓会の話題



近藤会長挨拶



コールアカデミーOBによる合唱

東京同窓会 平成二十年新年賀詞交歓会

平成二十年一月十七日午後五時半、開場した学士会館最大のホール二一〇号室に、コールアカデミーの素晴らしい歌声（CD）が流れました。六時にはマンドリン倶楽部OB七名による演奏が開始、「栄冠は君に輝く」学生歌「松原に」「東京ラプソデー」「青い山脈」の演奏が終わると直ちに総会を開始しました（六時二十分）。議事を簡潔に終えて六時四十分、いよいよ新年賀詞交歓会開始となりました。文部科学省、九州大学から十三名のご来賓をお迎えしました。

近藤会長挨拶に続き、梶山総長から大学の近況報告があり、柴田理事・副学長からは百周年記念事業についての報告・協力要請がありました。

会長代行の増田信行氏（三菱重工相談役、元会長・社長）のユーモアあふれるスピーチと乾杯の音頭により新年の宴が開かれました。

三百名余が集う満場の宴席では明るく和やかな懇談が続く中、若手中心に興味などを主テーマにしたスピーチが場内を沸かせました。三十三年法学部卒八名による教養部田島寮・学而寮で歌われていた寮歌（巻頭言付き・旧制福岡高校寮歌）高唱で、一層雰囲気盛り上がりしました。

今回新年会のハイライトはなんと言ってもコールアカデミーOB三十数名の出演です。

Freier Kunst、どんたく囃子、野ばら三曲の素晴らしいハーモニーに魅了されました。特に、野ばらは荒谷俊治氏（法学部二十八年卒、日本指揮者協会会長）が指揮をとり、出席者の関心を集めました。恒例の学生歌斉唱もコールアカデミーの指揮・指導で例年になく力強い歌声が響きました。締めくくりは「博多祝歌」で、新年会に相応しく開場は笑顔にあふれていました。

料理も充分で、大変充実した新年会になりました。同窓会連合会のご支援を感謝します。

東京同窓会理事長・事務局

田坂 和義



（左から）小寺山理事、大槻（独）国立高等専門学校事務局長（元九州大学総務部長）、早田（社）国立大学協会常務理事（元九州大学理事・事務局長）

九大ロンドン オフィス便り



二〇〇八年一月二十七日
九州大学ロンドンオフィス所長
山田 直

第三回九州大学英国同窓会の開催

九大の皆さん、こんにちは。

今年のロンドンは暖冬が続いており、一月末の今になってもまだ雪を見ていません。ただし、三月でも雪の日があるので、まだ油断はできませんが。

二〇〇八年一月二十五日、第三回九州大学英国同窓会をロンドン中心部の中華レストランで開催しました。メーカー勤務者、国家公務員、大学研究者、留学生、主婦、新聞記者等総勢十一名が参加し、四時間にわたり、大いに話が盛り上がりました。これだけの人数の九州大学出身者がロンドンに集まり、同窓会を開いたのは初めてのこともかもしれません。

現在、会員登録をしている方は十六名ですが、英国在住の九州大学卒業生はまだまだおられると思うので、いろいろな機会を利用してコンタクトを試みていきたいと思っています。



第3回九州大学英国同窓会の参加者は、以下の皆さんです。（敬称略）
写真後列左から、西田公彦（H4工）、渡邊圭子（H16歯）、森本陽平（H16工・修士）、小泉ひとみ（H14経）、小坂伸行（H7農）、根津弥（九大学部3年生、21世紀プログラムにてロンドン留学中）、藤井賢次郎（H6経）
写真前列左から、中富満城（H14歯、H18東医歯大・博士）、山田直（九大ロンドンオフィス所長）、元村有希子（H1教）、樋田知也（H11総理工・修士）。

告知板

学生の皆さんへ!!

言語文化研究院箱崎分室

平成20年度前期 言語文化自由選択科目 開講案内

(2008年4月14日(月)より移転先新教室にて授業開始)

[重要]平成20年度入学の1年生のみなさんへ

※箱崎分室の英語科目の授業は原則として2年次以降の学生を対象としているので、みなさんは受講できません。
英語科目以外の授業については「入門〇〇語」と表示された科目のみ受講可能です。

平成20年度前期時間割 *印は伊都地区にて開講されます

時限	月	火	水	木	金
1	英語会話Ⅱ (アンスコム飯野)		英語リーディングⅠ(小松) 入門中国語Ⅰ(秋吉)		英語リスニングⅡ (アンスコム飯野)
2	英語リスニングⅠ (アンスコム飯野)	英語リーディングⅡ (稲葉)	英語リーディングⅢ(大谷) 中国語口語Ⅰ(秋吉) フランス語読解コース (阿尾)		英語会話Ⅱ (アンスコム飯野)
3	入門ロシア語Ⅰ (佐藤)			入門インドネシア語Ⅰ (遠藤ファビオラ)	
4	ドイツ語中級Ⅱ(田畑) 入門フランス語(森) 入門イタリア語Ⅰ(スリス) 英語会話Ⅰ*(ホール)				入門韓国語 (朴) 英語プレゼンテーションⅠ*(ホール)
5	英語プレゼンテーションⅠ(ベノム) ドイツ語オーラル演習Ⅰ (カスヤン) スペイン語圏の言語と文化 (山村) 英語テスト・テイキング*(ホール)		英語ライティングⅠ (アームストロング)	英会話Ⅰ (ブルックス)	ドイツ語読解演習Ⅰ (田中俊明) フランス語実用会話 (ホスーシュ) 英語会話Ⅱ*(ホール)
6	英語リーディングⅠ (鎌田)		英語ライティングⅡ(アームストロング) 入門スペイン語(柿原)	英会話Ⅱ (ブルックス)	英語テスト・テイキング (クイン)

英語科目を受講するには、プレイacementテストを受けるか、TOEFL・TOEICのテストスコアが必要です。詳細はホームページ等でご確認ください。

●プレイacementテスト日程

4月11日(金)	(1) 9:00-12:00	(2) 13:00-16:00	(3) 18:00-21:00
4月15日(火)	(4) 9:00-12:00	(5) 13:00-16:00	(6) 18:00-21:00
4月16日(水)	×	(7) 13:00-16:00	×
4月17日(木)	(8) 9:00-12:00	×	×

場所：言語文化研究院 箱崎分室 304大講義室
(筆記用具を持参して、開始時間厳守の上、直接会場へお越しください。)

●受講受付期間

(学部生優先ですが、院生・留学生・教職員も定員内一定枠で受講可能です。)

受付期間 4月7日(月)～4月25日(金)

(詳細はホームページ等でご確認ください。)

●詳しい講義内容・受講申込みの内容および移転場所につきましては、『開講案内』を言語文化研究院箱崎分室、六本松地区全学教育教務係及び各学部の学生係にて配布しています。

●移転のお知らせ

言語文化研究院箱崎分室は平成20年3月に移転しました。平成20年前期の受講受付及び授業は移転先にて行いますので、ご注意ください。



【場所】箱崎キャンパス内 旧工学部三号館(50周年記念講堂隣り) 北棟3階

【問合せ先】大学院言語文化研究院 箱崎分室 (平日8:30～18:00)

ホームページ: <http://www.flc.kyushu-u.ac.jp/~flcbr/>

TEL&FAX : 092-642-2285 E-mail : flcbr@flc.kyushu-u.ac.jp

九州大学開学記念

九州大学は、5月11日を「本学記念日」と定め、例年、開学記念行事を開催しています。

今年は1911年（明治44年）の創立以来97周年を迎え、記念行事として、5月8日（木）に記念講演会、5月12日（月）に記念式典、学内研究施設の公開など様々なイベントを予定しております。学内外を問わず、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

平成20年度開学記念行事概要

◎九州大学創立97周年開学記念講演会 [入場無料・要事前申込み]

日時 平成20年5月8日（木）18時30分～20時

場所 アクロス福岡イベントホール（中央区天神1-1-1）

次第 ◎総長挨拶

◎記念講演会 講演者：高階 秀爾氏（大原美術館館長）

演題：「花の色はうつりにけりな—絵画と文学の交響—」

司会：北山 修（九州大学 大学院人間環境学研究院 教授）

講演会申込み方法

住所・氏名・職業（九大関係者の場合は所属・職（学年））、連絡先を記入して、FAX・メール・ハガキでお申送ください。後日、参加証をお送りします。

■申込受付締切：4月21日（月）申込者が定員（700名）を超過した場合は、抽選により決定させていただきますのでご了承ください。

◎記念式典

日時 平成20年5月12日（月）10時～12時15分

場所 創立五十周年記念講堂大講堂（九州大学箱崎キャンパス内）

次第（予定） ◎九大フィルハーモニーオーケストラ演奏

◎総長挨拶

◎感謝状贈呈

◎名誉教授称号記授与

◎研究・産学官連携活動表彰

◎九州大学チャレンジ&クリエイション
プロジェクト総長賞表彰・発表会

◎九州大学ロバート・ファン・アントレプレ
ナーシッププログラム(QREP)発表会

◎(財)九州大学後援会助成金授与式及び助
成事業発表会 等

◎学内研究施設の公開、伊都キャンパスツアー

九州大学の教育研究内容を広く知っていただくため、5月12日（月）を中心に、研究施設等を公開いたします。詳細は本学ホームページ等にてお知らせします。

◎伊都キャンパスツアー（要事前申込み）

日時 5月12日（月）13時 箱崎キャンパス集合 17時帰着

伊都キャンパスツアー 申込み方法

住所・氏名・職業（九大関係者の場合は所属・職（学年））、連絡先を記入して、FAX・メール・ハガキでお申送ください。後日、参加証をお送りします。定員（60名）になり次第、締切らせていただきます。

九州大学ホームページ <http://www.kyushu-u.ac.jp>

【お申し込みお問い合わせ】

〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1 九州大学総務部総務課

TEL:092-642-2107 FAX:092-642-2113 E-mail:syskaigaku@jimu.kyushu-u.ac.jp

新聞で報道された九州大学

平成十九年十二月上旬〜平成二十年一月下旬

12月

医を診る 医学教育
吉田素文医学研究院教授
(朝日 12/18、15、22)

メタボリックシンドローム 腹囲規準
九大の久山町研究
(毎日 12/2)

早大百二十五周年記念 二十世紀国際フォーラム ロボット手術
橋爪誠医学研究院教授
(朝日 12/3)

食の健康学 日本人の塩分摂取量
二ノ宮裕三歯学研究院教授
(毎日 12/3)

九州大学演劇部 講演会
(日経 12/4)

九大生ら 飯塚のまちづくりを調査
(西日本 12/5)

島原で火山都市国際会議
清水洋地震火山観測研究センター長
(読売 12/5)

地域医療は今
生体防御医学研究所 中山敬一教授
(読売 12/6)

国際会議開催数 福岡市全国三位
九州大学八十七件
(朝日 12/6)

九州大学マンドリンククラブ定期演奏会
(朝日、西日本 12/6、7)

吉田福岡市長 公約検証
出口敦教授(都市計画)
(西日本 12/7)

沖縄・済州が問う歴史
石川捷治法学研究院教授
(朝日 12/7)

世界平和バコダ施設修復へ
九州大のミヤンマー人留学生ら
(朝日 12/7)

九大留学生らが茶会を体験
(西日本 12/7)

予備校内で大麻売買 九大生も
(朝日、熊本日日、長崎、読売、12/7、8)

システムLSI研究センター
ICカード定期券の実証実験
(毎日、読売 12/8)

発達障害者の支援シンポジウム開催
九大教育学部と医学部
(西日本 12/8)

美術批評 コーボラ・イン・サイト展
自然環境、数値化し建築物に
池田美奈子芸術工学研究院准教授
(朝日 12/8)

博士の就職難に救いの手
九州大学キャリア支援センターを設立
(日経 12/8)

人工降雨 年内にも九大実施
佐世保市で
(長崎、朝日、読売、西日本 12/8、9、11、26)

九州大学アジア理解講座開催
中国の流動人口と社会政策
(毎日、朝日、読売 12/8、13)

地域主導型道州制 江口克彦著
国民論議のたたき台に
溝越明客員教授
(西日本 12/9)

九州大病院栄養サポートチーム講演会
(西日本 12/9)

有明海再生をテーマに
シンポジウム開催
(西日本 12/9)

九州の技術遺産を次代に
講演会開催 九大大橋のサテライトで
(西日本 12/9)

アメフト 西日本学生王座決定戦
九大善戦
(朝日 12/10)

長引く倦怠感 原因探り生活見直し
久保千春医学研究院教授
(日経 12/11)

学生企画の企業説明会 九大生ら
(読売 12/11)

九州の産業社文化史 九大到蓄積
資料センター 秀村選三名菅教授
(日経 12/11)

九大伊都キャンパス JR筑前原駅
路線バスの運行開始
(朝日 12/11)

九大・福岡教育大
能楽部自演会開催
(読売、西日本 12/11、13)

エコ袋大作戦 脱レジ袋
佐藤剛史農学研究院助教ら企画
(西日本、朝日 12/12、25、26、27)

九大フィルハーモニーオーケストラ
(朝日 12/13)

住民参加の川づくり
情報共有し合意形成を
島谷幸宏工学研究院教授
(西日本 12/14)

がんと生活習慣報告書
肥満・飲酒は高リスク
廣畑富雄名誉教授
古野純典医学研究院教授
(朝日 12/14)

子ども学連続講座
ユーザーサイエンス機構
(朝日 12/15)

九大、女性研究者増へ
支援策を拡充
(西日本 12/15)

福岡ゲーム産業振興機構 九大など
インターンシップ参加者募集
(西日本 12/15)

水と生活かわり探る シンポ開催
九州大学国際研究交流プラザで
(西日本 12/16)

モノづくり連携大賞 特別賞
九州大学グループ
ゲーセンに二足歩行ロボ
(日刊工業 12/17)

死刑廃止めぐり討論
九大六本松キャンパスで
(西日本 12/17)

九大フィルハーモニーオーケストラ
定期演奏会
(西日本 12/20)

小説時評
松本常彦比較社会文化研究院教授
(読売 12/20)

田畑にボイ捨てやまず
前原市民や九大生 ゴミ調査
(朝日 12/20)

九州大学美術部展示会
(西日本、読売 12/20、25)

元岡農畜産フェア
九大ジャズ研究会の演奏
(西日本 12/21)

光化学スモッグ原因調査
応用力学研究
(読売 12/21)

惜別 大河内一雄名誉教授
輸血感染症研究者
最後まで血液と向き合う
(朝日 12/21)

カミネ油症 胎児被害証明
九大など共同研究
長山淳哉医学研究院准教授
(読売、熊本日日、南日本 12/22)

九大音響設計学科と共同開発
(西日本 12/22)

九大 台湾の工業技術研究院と協定
半導体・環境面で
(日経、日刊工業 12/22、24)

ガムの水を透明に 天然鉱石粉末で浄化
島谷幸宏工学研究院教授ら
(佐賀 12/23)

地球に優しい燃料研究 佐々木一成水素利用技術研究センター長
(朝日 12/23)

九大の留学生ら招き もちつき交流
前原市
(西日本 12/23)

田園風景 ゴミから守れ
前原市と九大が調査、独自対策へ
(読売 12/23)

百周年記念事業シンボルロゴ決定
「知」の象徴デザイン
(日刊工業 12/25)

繁殖牛増頭へ省力化 ーT技術を駆使 後藤貴文農学研究院准教授
(日本農業 12/25)

フランスのボルドー市政治学院長ら
九大と交流協定締結を市長に報告
(西日本 12/26)

どうなる子ども病院 人工島移転
桑野信彦名誉教授、
信友浩一医学研究院教授
(西日本 12/26、27)

文科省 ナイスな研究者に選定
若山正人数理学院長、
中尾充宏産業技術数理研究センター長
(読売、朝日、毎日 12/27)

九大法科大学院長に西山芳喜氏
(読売、西日本 12/27)

九州経産局調査 大学発ベンチャー
行政の支援減少 九州大学四十六件
(西日本 12/27)

九大構内で親切に場所を教示
産学連携の成果次々と
梶山千里総長
(日経 12/29)

植民地期朝鮮研究の現在地 原智弘
韓国研究センター非常勤研究員
(西日本 12/29)

認知症予防 歩く習慣を
九大久山町研究
(日経 12/30)

1月

デジタルコンテンツ 福岡
大集積地へ 産学官連携 九大など
(朝日 1/1)

福岡に水素タウン 水素社会実用化へ
九大伊都キャンパス
(西日本 1/3)

時評小説 生と死が解け合う感覚
松本常彦比較社会文化研究院教授
(読売 1/4)

九大、九州電力、三菱重工業
次世代自動車技術の共同開発へ
(西日本 1/4、6)

「感性」大学院を開設 モノづくりや福
祉に繊細な心 心地よさ追求
(西日本 1/5)

医を診る 脳について
飛松省三医学研究院教授
(朝日 1/5、12、19、26)

ナイスな研究者に選定
若山正人数理学研究院院長、中尾充宏
産業技術数理研究センター長
(読売 1/6)

九大発ベンチャー企業 ロボキャッ
チャー 技術、アイデアをアピール
(読売 1/7)

こころを生かす、からだを生かす
笑劇場 医学部百年講堂で
(西日本 1/7)

入試最前線 二十一世紀プログラム
AO入試に手応え
(読売 1/8)

九州大と前原市が連携
地理情報システム構築の開発
(毎日 1/8)

九大ビジネススクール
新博多駅ビルに移転調整
(日経、朝日、毎日、西日本 1/8、9、11)

福岡市の飲酒事故
危険運転致死傷罪 成立要件あいまい
内田博文法学研究院教授
(朝日 1/9)

ダイオキシンは怖くないという嘘
長山淳哉医学研究院准教授
論説委員室から
(朝日 1/9)

さらば九大箱崎キャンパス
吉川幸作氏の作品展
(西日本、読売、日経、毎日、1/9、10)

サハリンからの留学生
残留朝鮮人の孫 日口韓の懸け橋に
(朝日 1/10)

一日一快食でストレス解消
藤野武彦名誉教授
(読売 1/10)

インドネシア原産イネ科植物
「ベチバー」消臭剤「ゴキブリ」阻止で注
目 清水邦義農学研究助教授
(読売 1/10)

東アジアの「食」研究所 甲斐諭教授
(農業経済学)が初代所長に
(読売 1/10)

足寄と協力 農・林・エネルギーなど
で講演会 北海道演習林
(北海道、十勝毎日 1/10、12)

エコ袋大作戦 広がる「収益で本贈る
う」 佐藤剛史農学研究助教授
(朝日 1/11)

南極地学調査隊 大陸五億年の謎に
挑む 小山内康人比較社会文化研究
院教授(副隊長)
(西日本、南日本 1/11)

世界の水素研究者集結
福岡市でフォーラム
九大伊都キャンパスツアーなど
(西日本 1/11)

私の視点 外国人看護士
受け入れ方法の再検討
平野裕子医学研究院准教授
(朝日 1/11)

筑前前原駅へ九大伊都キャンパス
路線バス新設
(西日本 1/11)

国背負うリーダーに
泉国家公安委員長
母校の九大で講演
(読売、西日本、毎日 1/12)

比較社会文化研究院長に田中良之氏
(西日本 1/12)

新成人祝い 福津で寒中水泳
県内七大学 九大など
(西日本、読売、朝日 1/12)

九大の久山町研究
がん、アルツハイマーなど
糖尿病ならリスク高く
清原裕医学研究院教授
(西日本 1/13)

付加価値の高い農業を
甲斐諭農学研究助教授
(西日本 1/15)

伊都検定 前原市と佐藤剛史農学研
究院助教授ら企画
(西日本、朝日 1/16)

定期券を財布代わりに
北九州モノレールなど実験
システムLSI研究センター
(西日本 1/16)

九大男性合唱団 定期演奏会
(西日本 1/17)

大麻事件 九大処分できず困惑
(読売 1/17)

九大と共同で降雨実験 佐世保市で
西山浩司工学研究院助教授
(朝日、日経、読売、南日本、西日本、毎日、熊本
毎日 1/17、18)

言語文化研究院長にミヒエル・ヴォル
フガング氏
(西日本 1/18)

児童買春で逮捕の九大職員
諭旨解雇処分
(西日本、日経、読売、毎日 1/18)

日本宇宙少年団
伊都キャンパスで動力機の地上滑走
(西日本 1/18)

大学入試センター 九大などで
(西日本、毎日、読売、日経、朝日 1/18、19、
20、21)

医師不足時代のお産を考える
福岡恒太郎九州大学病院助教授
(毎日 1/19)

肝炎研究で国際的な偉業
大河内一雄名誉教授 後世に
(西日本 1/19)

東長寺節分PR
九大の留学生ら豆まき
(西日本 1/19)

家畜のふん尿処理 里山保全
竹材利用 伊都キャンパスで試み
(読売 1/19)

サゴヤシからバイオ燃料
石崎文彬名誉教授
マレーに工場建設
(読売、南日本 1/19、25)

アイランドシティで介助ロボの公開実
験 九大など
(西日本、朝日、読売 1/19、26)

九州電力の寄付講座で講習会
電気エネルギー環境工学 九大で
(電気 1/21)

中日交流史で意見交換
北京大研究者が九州大で発表
(西日本 1/21)

企業・自治体との包括連携に拍車
創立百年 世界水準の研究拠点
(日刊工業 1/22)

九州大学がカミナ油症研究センターを
設置 長崎にも医師を在駐
(日経、西日本、毎日、読売、朝日、宮崎毎日、山
口、熊本毎日、長崎、佐賀、南日本 1/23)

応用力学研究所長に柳哲雄氏
(西日本 1/24)

甲斐諭農学研究助教授 最終講義
食品偽装問題に懸念
(西日本、読売 1/24、25)

システム情報科学研究院長に
安浦寛人氏
(西日本 1/25)

九大学生デザイン
ユニークなイスコンテスト
(西日本 1/25)

西日本新聞開設の分権型社会講座論
学生の意見を肥やしに
(西日本 1/25)

米UCLAと共同シンポジウム開催
CNSIとグローバルCOE
(日刊工業 1/25)

憲法九条改正に反対
石川捷治法学研究院教授が最終講義
(西日本 1/25)

火山大国 次期予知計画
九州大学地震火山観測研究センター
(朝日 1/25)

糸島の農業振興テーマにシンポジウム
伊都キャンパスで
(西日本 1/25)

アイガモ農法の古野隆雄さん
九大から博士号
(西日本、朝日 1/26、29)

九州大学 二次願書受付開始
(西日本、読売 1/28)

感動的にロシアの歌
九大コールアカデミー 積極的な活動
(西日本 1/29)

宮崎賢治の世界 子ども学連続講座
ユーザーサイエンス機構
(西日本 1/30)

九大 バイオや環境など
先端研究強化
(日経 1/30)

糸島の農業と九大連携探る
シンポジウム開催
(朝日、毎日 1/30、31)



九大生が案内する

世界のキャンパス

University of Manchester

交換留学先

マンチェスター大学



イギリス

経済学部 4 年

齋藤 英之

さいとう ひでゆき

ハロウィンパーティーで友人と。(前列真ん中、白・黒の顔が著者です)

私はマンチェスター大学の School of Social Science の BA Econ コースで一年間、交換留学生として授業を受けました。このコースの学生は幅広い分野から授業を取ることを許可されており、私は国際経済学や社会学などの分野の授業を履修していました。このマンチェスター大学の BA Econ コースの一単位は (BA Econ のみならず文系のコースはほとんど同じだと思うのですが...) 日本の一単位とは異なり、単位習得のために学生は一週間に授業形式の lecture を六十分、ゼミ形式の tutorial/seminar を六十分受ける必要がありました。

このような授業形式をマンチェスター大学はとっていたのですが、学期が始まって最初の二ヶ月、授業についていくのは私にとって非常に大変でした。当たり前の話なのですが教科書・資料は全て英語、しかも一回の授業の予習のために教科書を 30〜70 ページほど読まなければならない...一週間のほとんどの時間を全て勉強に費やしても全く勉強が終わらない!! という状況だったのです。しかし最初の二ヶ月を過ぎると、段々と効率的に勉強をすることができるようになってきて、徐々に時間と気持ちに余裕が出てきて、寮の人たちとの交流も増えてきた気がします。勉強を一生懸命頑張るのも大事だけど、適度に遊びや交流といった勉強以外のこととバランスをとるのが留学中は大事なあと今となっては思います。

遊びとのバランスと書きましたが、マンチェスターには遊べるところがたくさんあります。まずクラブやパブの数が多く、友達と仲良くなるには絶好の場であると言えるでしょう。あと大きなショッピングモールがあるので服など買い物を楽しむことも出来ます。そしてサッカーが好きなら、絶対オールトラフォードに行くべきです。三回試合を見に行きましたが、鳥肌が立ちました。試合がない日にスタジアムツアーに参加することもできるので是非行かれた方がいいと思います。このように遊ぶことに関しては、マンチェスターは非常にいい街だと言えることができるでしょう。



オールトラフォードでの試合観戦。チケットを譲ってもらえたら、こんな近さから見られることも!!

大学情報

マンチェスターはイギリスの工業都市で、街並みにもその工業都市の特徴が色濃く残っています。現地の人は非常に訛りが強く、私も最初は聞き取るのに苦労しました。そのようなマンチェスターの中心からバスで五〜十五分の所に位置するのがマンチェスター大学です(非常に大学が大きいので、ある学部の建物は五分で着きますが、他の学部の建物までは十五分かかるとある)。マンチェスター大学は、開発学、ビジネス学、理系の工学など幅広い分野に強みを持っており、イギリスの中でも非常に規模の大きい大学であると言えるでしょう。あらゆる施設が充実しており、図書館、スポーツジムなどは非常に大きく立派です。また海外留学生へのサポートもしっかりとしており、英語が苦手な留学生のために英語のコース(grammar, writing, speaking など)も開設しています。

一つ注意しておきたいのは学生寮のチョイスです。マンチェスター大学には非常に多くの学生寮があり、それぞれの特徴は多種多様です。なかにはあまりにうるさすぎて勉強をするのに適さない寮などもあるようです。ですので寮を選ぶ際には色々情報を集めておいたほうがいいかもしれません。このようにマンチェスター大学は、学生の「勉強」と「遊び」の両面での生活が非常に充実したものであるようサポートしてくれているような気がします。

交換留学について詳しく知りたい方は、「九大生のための海外留学情報」(<http://www.isc.kyushu-u.ac.jp/intlweb/study/>)をご覧ください。過去の交換留学生による報告書も大学毎にたくさん掲載しています。

日経B Pムック「変革する大学」シリーズ

九州大学 2008～2009年版 「知の新世紀を拓く」

編 著：日経B P企画

発 行：日経B P企画（2008年1月刊、税込み1,200円）

こんな
本
出しました

著者から一言

このほど「変革する大学」シリーズの新刊として「九州大学 二〇〇八～二〇〇九年版・知の新世紀を拓く」を刊行いたしました。

日経グループが得意とする企業研究の手法を用いて、九州大学の現在と未来をレポート。旧帝大の伝統と蓄積にあぐらをかくことなく、未来を見据えた大胆な改革に邁進する九州大学の姿に、教育力、研究力、社会連携の三つのキーワードを通じて迫りました。

受験生・在学生の保護者のもとより、ご卒業生や産学連携に関心のあるビジネスパーソンに、九州大学の高いポテンシャルを示すのに最適な一冊です。

（日経B P企画 大学出版グループ編集長 小山信幸）



編集後記

九大広報にも、学生は語学を勉強すべきという話が頻繁に出てくる。とはいっても、福岡には英語を話す欧米系外国人が多いわけでもないから、実際にはそれほど英語を使う機会もない。目の前の必要性に迫らなければやる気も起かないのが人のサガなので、まあ英語なんてできなくてもいいかと安きに流れる学生も多いことだろう。やはり語学の必要性を感じるのは、海外に行ったときである。視野を広げるためにも、自分自身の立ち位置を明確にするためにも、とにかく意識的に外に出ることだ。少しアンテナを張ってみれば、九大には積極的な外に出る学生を支援する制度がいろいろとある。その機会を生かした方が、人生格段に楽しくなる。

編集委員・准教授 末廣 香織

「九大広報」は創刊号が平成十年七月号だからまもなく十周年を迎える。最初の号は表紙やページデザインなどほとんどの作業をスタッフ二名でやった。ネタは遠からず尽きると思われたが、創刊号と第十号が文部省優秀広報紙に選ばれて推進力が出て、原稿執筆者、読者など大学内外の多くの方々の後押しで今日まで来た。移転、統合、法人化等々、大変革期を乗り越える九州大学の姿が誌面に見える。まもなく発行される、これまでのインタビュー、対談、鼎談、座談会を集めた特集には、九州大学の豊かな人脈がかいま見える。「九大広報」を、これからもご愛読、ご叱責、よろしく願っています。

広報室長 白杵純一

九大の最新情報は 「九大広報」の定期購読で。

九州大学同窓会連合会では、九州大学の姿をご理解いただくため、同窓生や在学生のご家族の皆様をはじめ、広く一般の方々にも「九大広報」の定期購読をお願いしています。定期購読は年間六巻分（隔月発行）三千円でお受けいただけますので、ご希望の方は、同窓会連合会事務局までご連絡をお願いします。

九州大学同窓会連合会事務局
TEL.092-642-4328 FAX.092-642-2113
E-Mail alum.uok@mbox.nc.kyushu-u.ac.jp



九州大学
KYUSHU UNIVERSITY

